

合同ゼミの感想と反省

吉田裕伴・関根賢人・石川祐太郎・服部哲郎
鷺桃子・上水智瑛・森下文望

1. 合同ゼミの準備に関する感想と反省

今回の合同ゼミを行うにあたって今年は2年目ということもあり、資料の集め方、活かし方などの点でスムーズに進めることができましたが、JAPANブランドというテーマに難しさを感じました。というのも学校やインターネット、国立図書館から得られる資料は満足いくものではありませんでした。その為、直接現地に行つての聞き取りや詳しい資料を頂くことでやっと自分たちが満足いくものを得ることができ、そのあとは順調に作業を進めることができました。ただ反省したい点は作業を進めるにあたり時間がなかなか合わなく個人での活動がメインとなってしまったので、もっとグループとして作業を進めるべきでした。

2. 当日の報告内容とそれに対する質疑の概要

私たちはJAPANブランドという中小企業庁が地域ブランドへ行っている支援事業について調査しました。私たちのグループはKYOTO PREMIUMという京都の伝統産業である西陣織・友禅染めについて、駿河台大学の皆さんは愛知県の瀬戸の陶磁器について報告しました。当日の報告内容については、

- ①西陣織・友禅染めの歴史について
- ②JAPANブランド育成支援事業参入の経緯
- ③JAPANブランドとしての海外、国内への活動内容
- ④それぞれの成果と将来性

の順で報告しました。駿河台大学も歴史から衰退の要因、今後の商品や戦略など私たちのグループと同じ流れで行っていました。質疑の概要はそれぞれの事業でのライバルはいるのか？新商品開発にあたり特定のアーティストはいたのか？育成支援事業への参入の経緯や詳しい事業内容、その後どのような変化が現れたのか？など両グループの事業内容についてさらに詳しく求める質問が多かったです。

3. 合同ゼミに対する感想と反省

感想としてはよくできたと感じています。ただ作業や研究を進める際、個人ワークが主体となってしまったことが残念です。グループとして行う以上グループ全体で行動し意見を出し合ったりすることで、よりよい成果が残せたのではないかと感じます。そして何より直接京都へ行き現地の方々や事業に携わっている方にお話を聞かせていただいたことが、今回の成果に結びついたものと思います。さらに、どうしたら聞き手に詳しく伝えることができるかを考えることで、プレゼンの原点に帰ることができました。